視点―25年度第1四半期切板需要見通し

需要低迷、在庫の調整局面続く

全国の厚板溶断業者で組織する全国厚板シヤリング工業組合（中島克英理事長＝富士鉄鋼センター社長、ZSK）はこのほど、経済産業省のヒアリングで2025年度第1四半期（25年4―6月期）の切板需要見通しを報告した。月当たり平均切断量は前年同期比0・9％増の11万5000㌧、同出荷量は同0・7％増の14万㌧と依然低水準ながらもプラスに転じる一方、同母材受入量は同2・8％減の14万㌧、期末在庫量は同8・3％減の35万5000㌧となり仕入れの抑制による在庫の調整局面が続くと予測する。切断量と出荷量については24年度第2四半期以降、コロナ禍に直面した20年度を下回る過去最低レベルを記録しており、現状が需要の大底との見方が大勢だ。当面、切板需要の劇的な回復は見込めず、25年度上期は24年度下期比横ばいまたは微増で推移するとみている。

同組合では毎月実施している鋼板流通調査（組合員162事業所が対象）に基づき、四半期ごとの切板需要動向をまとめている。それによると、24年度第3四半期の月当たり平均切断量は前年同期比8・1％減の11万3000㌧、同母材受入量は同13・1％減の12万6000㌧、同出荷量は同10・1％減の13万4000㌧、期末在庫量は同2・2％減の35万5000㌧となった。3ヵ月前の推計値と比べて切断量は2000㌧、受入量は1万4000㌧、出荷量は6000㌧のマイナス。長引く需要低迷が影響して伸び悩み、切断量と出荷量は過去10年間での最低を更新した前四半期実績を上回ったものの、20年度上半期の水準にとどまった。受入量を抑えたことで在庫は減少傾向をたどり、20年度第4四半期（35万1000㌧）以来の水準まで調整が進んだ。

24年度第4四半期も切板市場を取り巻く環境は大きく変わらず、短納期・小ロットの受注をメーンにその場をしのいでいる。厚板メーカーである中部鋼鈑の製鋼工場の事故を受けて市中の材料を確保する動きや切板のスポット注文増なども見られたが、需要低迷を反映してそれほど大きな混乱は生じていない。

需要分野別の概況と見通しは次の通り。

▽橋梁・土木＝24年4―12月の橋梁入札量実績は累計6万9000㌧と年率換算で10万㌧に満たない規模となり、今年度通期の実績は統計上での過去最低を記録した昨年度の13万8000㌧を大きく下回る見込み。25年度も新設事業は24年度並みの低規模が続くとみられ、4月以降の溶断業者の仕事量はより一層厳しいものとなる見通しだ。

▽建機＝海外需要は依然、北米向けや欧州向けの不透明感が強く、中国では経済活動の停滞に伴う大幅需要減が続いている。東南アジアのマイニング向け分野は全体的に低調で25年度第1四半期にかけて分野を問わず需要回復の兆しが見えない状況が続く。建材分野は建築鉄骨向け、橋梁向けともに溶断業者の活動水準は過去最低レベルにあり、建産機分野は欧米向け販売の減速などによるメーカーの減産に伴い切板需要も振るわない。店売り分野は全体的に低調で推移する。

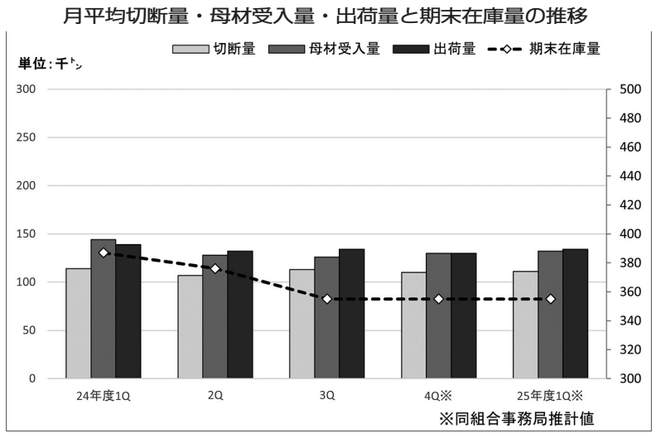
▽鉄骨＝24年度の鉄骨需要は2年連続で400万㌧割れとなる見込み。建設コスト高騰や人材不足、図面承認遅れなどによる工程のずれ込みが影響し、計画物件の中断や着工延期、計画自体の見直しが相次ぎ、需要回復の兆しが見られない。こうした中、一部のゼネコンでは海外鉄骨の輸入、コスト削減を狙った設計変更などの動きも出ているという。

▽船舶・その他＝24年暦年の輸出船契約実績は1116万総㌧と4年連続で1000万総㌧を超えた。日本の造船所の手持ち工事量は3年以上を確保している模様。ただ、中長期的な建設コストの見通しが立たない点と、人手不足や機器調達難などにより建造ピッチが上げられない状況に変わりはない。こうした中、24年度の造船向け厚板需要は前年比微減の266万㌧程度となり、25年度も同等の水準にとどまる見込みだ。

▽店売り＝建築・土木関連や産機部門での低調が継続。加えて建機部門でも需要が減少傾向のままで、厳しい需要環境が続く。1月に起きた電炉メーカーの火災事故により市中の電炉材在庫は品薄状態で、マーケットへの影響が注視される。全体的に厚板需要の低迷が続くと見込まれ、溶断各社は今後も市況維持とコスト転嫁に注力していく必要がある。

けは引き続き堅調だが、全体としては経済の先行き不透明感により当面、需要低迷が続く見通し。国内建機メーカー各社の生産計画に大きな変化はなく、主力の油圧ショベルでは前年度比2割程度の減少が見込まれる。

▽産機＝産機関連の切板需要は低位横ばい。工作機械受注金額については1月が前月比約19％減、前年同月比約5％増となった。この分野も早期の需要回復が待たれる状況にある。



山九グループ　溶接など基礎研修に72人

新入社員研修スタート

「ご安全に！」若い元気な声が、鉄鋼の城下町、君津の空の下にこだました。4月10日、山九グループで人材育成を担うサンキュウリサーチアンドクリエイト東日本能力開発センター（千葉県君津市）は、同グループ東日本の現場配属新入社員72人（君津支店25人、千葉支店11人、東海支店14人、鹿島支店12人、三重支店6人、鹿島鉄鋼支店1人、静岡支店1人、山九重機工2人）を集め、2025年度新入社員整備基礎研修の開講式を開催した。

冒頭、同センターの中西克也所長は「この研修では、『一期一会』と『働くとは』の2点を心がけてほしい。一期一会は、一緒に研修する仲間や指導員、関係するスタッフとの出会いとともに、研修で経験する瞬間を大切にしてほしい。また、働くとは、プロフェッショナルになることである。すなわち、自分の持つ技術・技能、専門性で請け負ったミッション（仕事）をやり遂げることができるのが、プロである。プロになることを意識して、この研修でプロに必要な技術・技能、専門性を磨いてほしい」とした。

中西所長

開講式終了後、新入社員一同は、9班に分かれてオリエンテーション。翌11日は基礎学力テストを実施し、12日から6月4日までの約2ヵ月間にわたり、アーク溶接、ガス溶断、玉掛、ハンマリング、穴あけ・タップ・けがき、砥石、やすり、測定、図面制作、足場組立などの基礎技能や、基礎安全教育の実習を受ける。同研修終了後は、各配属先のOJTなどにより、本格的な技能を身に付け、一人前の溶接士などを目指す。

変化を恐れず成長を

大阪富士工業　70周年へ向け新入社員を歓迎

大阪富士工業（大島大社長）は4月1日、兵庫県尼崎市の本社にて入社式を執り行い、新たな仲間となる新入社員45人を温かく迎え入れた。記念すべき創立70周年を迎える本年、入社したフレッシュな顔ぶれに対し、大島社長は長年の歴史と実績を誇りつつ、変化を恐れず成長し続ける企業姿勢を強調した。

式典では、大島社長が新入社員に向けて祝辞を述べた。冒頭で入社への感謝と歓迎の意を示し、1955年の設立から鉄鋼業をルーツに持ち、「社会に求められるものを提供する」という理念のもと、従業員約2000人、グループ5社、売上高約300億円へと成長を遂げた同社の歩みを説明。

入社式のもよう

また、「大阪富士工業は人と現場の会社」であると述べ、目立たないながらも社会を支える重要な役割を担っていると強調した。また、2025年の創立70周年を機に、長期ビジョンに基づいた変革を推進していく方針を示し、「時代とともに成長する企業」という企業理念を改めて提示。「変化の多い時代に対応しながらも、人を大切にするという軸は変えず、そのために組織そのものを変化させていく、『変わらないために変わる』ことを実行していく」と力強く語った。

新入社員に向けて最も重要なメッセージとして、大島社長は「経営の根幹は安全である」と訴えた。鉄鋼業界における安全の重要性を説き、過去の教訓から生まれたルールを順守することの重要性を強調。その上で、現場での気づきや改善提案を積極的に周囲に相談するよう促した。

最後に、今年の桜の開花状況に触れ、開花後の低温が桜を長く咲かせることに例え、「皆さんも最初は苦労することが多いと思うが、状況には色々な見方ができる、前向きに捉えて乗り越えてほしい」とエールを送った。

新たなスタートを切った新入社員たちは、社長の言葉を胸に、それぞれの配属先で社会に貢献していくことが期待される。70周年という節目を迎え、さらなる発展を目指す同社の新たな一歩となる入社式となった。

縦型液ガス式熱量調整装置が初採用

省スペース化とコストダウンに寄与

JFEエンジニアリング

JFEエンジニアリング（福田一美社長）はこのほど、東邦ガスと共同開発した液ガス式熱量調整装置「AtomiOMS（Atomizing System）」の縦置き型が大阪ガス泉北製造所で初採用された。同製造所で発生するBOG（液化ガス貯蔵タンク内で発生する気化ガス）を処理するための全体設備のうち新設の熱量調整設備向けに納入したもの。従来比で最大50％の省スペース化と配管工事費のコストダウンに寄与する点が採用の決め手となった。

高圧で大容量の都市ガス製造に多く使われている従来方式の液ガス式熱量調整装置は、小流量域で運転する場合、大小2系列のユニットを組み合わせる必要があり、それらを切り替える際の制御が難しいことや設置スペースの増大、コストアップが課題となっていた。一方、「AtoMS」は天然ガス（NG）に液体の液化石油ガス（LPG）を直接注入する液ガス式熱量調整装置に新開発の微粒化ノズル機構を組込み、従来比約4倍の流量範囲での熱量調整が可能な方式とした。微粒化ノズル機構により1系列のユニットで幅広い流量・天然ガス熱量範囲の運転に対応でき、省スペース化と建設コストの削減に貢献する。

「縦型AtoMS」採用の熱量調整設備

それが今回、JFEエンジニアリングがDaigasガスアンドパワーソリューション（土井社長）から受注した大阪ガス泉北製造所でのBOG熱量調整設備新設工事で採用された。既存の横型を改良し縦置き配置でも使用可能としたものが導入されており、「縦型AtoMS」の初納入案件となる。「縦型AtoMS」は、熱量調整装置の改造時や更新時の敷地制約に対応することを目的に開発され、既存の横型と比べてさらなる省スペース化を実現した。

同社は今後増加が見込まれる天然ガス（シェールガス）などの低熱量LNGに対応でき都市ガスの安定供給に貢献する製品として都市ガス事業者に提案していく。エネルギートランジションを着実に進めていく中で、他の化石燃料からの転換や再生可能エネルギーの調整電源として重要な役割を果たすLNGの需要増加に応えるべく「縦型AtoMS」の拡販に努め、持続可能な社会の実現に貢献する考えだ。

松枝寛祐氏が死去

元大陽日酸会長

松枝寛祐氏（まつえだ・ひろすけ、元大陽日酸［現日本酸素ホールディングス］会長）3月26日、敗血症のため死去。83歳。通夜・葬儀は近親者のみで執り行われた。喪主は長女の祐子さん。なお、「お別れの会」の予定はない。

松枝氏は、1965年4月に旧日本酸素に入社し、93年6月に人事部長、64年6月に取締役、95年6月に常務取締役、2001年6月に専務取締役、02年6月に代表取締役専務、03年4月に代表取締役副社長を経て、06年6月には元大陽日酸（04年10月旧日本酸素と旧大陽東洋酸素との合併により商号変更、現日本酸素ホールディングス）の代表取締役社長に就任。10年6月に代表取締役会長となり、その後、12年10月に取締役相談役、13年6月相談役など、要職を歴任した。

訂正

4月15日1面「行くぞ万博」の記事中にある「まほろば」の運航日は、火・金・土でした。日曜日は運航しません。お詫びして訂正いたします。

ROLL BENDER 頼りになるロール加工の凄いヤツ!
NEW SRS-55Ⅱ
鉄芯ロール端曲げタイプ
端曲げ機構搭載
加工板厚はSS材で6mmまで対応
ボトムロール軸間個別開閉機構を採用
3本駆動で材料のスリップ軽減
加工幅：550mm
まるめることにマッスグな会社
https://www.scadia.jp
株式会社エスカディア　エスカディア　検索

レンタル・修理・メンテナンス
溶接機器専門
WELDING RENTAL
インナーシールド溶接機
CO₂/MAG溶接機
ターニングロール
サブマージ溶接装置
http://www.shingu-denki.com
㈱新宮電機産業
本社 埼玉県戸田市笹目南町25-1
電話 048-421-4531(代表)
FAX 048-422-0649

溶材商社向け卸レンタル会社
便利信頼
全国の営業所から常に万全な状態でご提供
品質
専門性
溶接機、延線ボールのプロ集団
専門の検査機器による独自の検査体制
品揃え
約2,300種類
約65,000点の保有数
SGP 生産技術パートナーズ
本社 TEL：03-6206-6441 FAX：03-6206-1176
https://www.sg-partners.co.jp/
生産技術パートナーズ　検索
八戸営業所 TEL:0178-38-7674　富山営業所 TEL:076-437-2100　四日市営業所 TEL:059-327-5311　周南営業所 TEL:0834-34-1147
六ヶ所営業所 TEL:0175-73-8444　横浜営業所 TEL:045-787-3911　大阪営業所 TEL:06-4702-7500　鳥栖営業所 TEL:0942-87-3300
いわき営業所 TEL:0246-75-1011　小牧営業所 TEL:0568-54-2266　水島営業所 TEL:086-456-1115

資料請求・訪問デモのお申し込み随時受付中!
ホームページ http://assist1.co.jp
かいけつ・びんびんまる
“怪傑・瓶々丸”®
新登場 Ver10シリーズ
容器管理システム納入実績No.1
お客様の規模に合わせたご提案をさせて頂きます
最新の法令順守システムを提供
システム概念
在宅管理
患者、機器、医療機関、使用明細
容器管理
容器受払、充填、配送、一般高圧保安、日報、カードル、アセチレンロット、容器使用料、ハンディ、バーコード、容器検査、容器在庫、改正薬機法、原料管理、随時処理
販売管理
見積、受注、発注、仕入、売上、決済（入金、支払）、粗利算入、各種照会、承認、与信、商品在庫、工事別収支管理、請求、購入、元帳（得意先・仕入先）、各種統計分析集計、区分経理集計、随時処理、住所管理
LPG管理
顧客、検針、配送、灯油、LPG保安
財務連携
取引データ財務、連携
高圧ガスメーカー様・溶材商社様向け専用システム
◎ ご提供システムの主な特長
➢ 販売・容器・保安管理一体連携システム
➢ 見積・受注・発注・仕入・売上間データ共有(参照・連動・連携)
➢ 最終相手先別・商品別・配達区分別・単位別、取引単価
➢ 在庫場所別・商品別・個別在庫別、在庫管理
➢ 工事別収益管理表、承認処理、２段階の与信管理
➢ 区分経理・適格請求業務処理対応
➢ 統計分析は、月別(12ケ月)・前期比較集計(一部グラフ)
➢ 容器調書計算書は、各地の方式に準拠
➢ 高性能ハンディにて容器管理精度・処理速度向上(特許手法)
➢ 最終納入先別の保安台帳作成(新書式・ＳＤＳ対応版)
➢ 価格改定・在庫棚卸に、ＥＸＣＥＬシート活用実装済
➢ 情報管理(漏洩防止と安価で安心データバックアップ)
➢ 導入後、追加経費不要のオールインワン保守パック
➢ その他多くの機能を実装済【詳しくはお問い合わせ下さい】
取扱店
エスシーウエル株式会社
東日本営業部　東京支店　TEL（03）6848-3310
中日本営業部　名古屋支店　TEL（052）726-9030
北陸支店　TEL（0766）27-6107
西日本営業部　関西支店　TEL（078）978-0511
関西支店（大阪）　TEL（06）6302-1115
広島支店　TEL（082）258-5314
九州支店　福岡営業所　TEL（092）431-4411
九州支店　北九州営業所　TEL（093）883-0633
九州支店　佐世保営業所　TEL（0956）31-7458
開発・販売元
株式会社 アシスト・ワン
東京本社　〒169-0075　東京都新宿区高田馬場一丁目24番16号 内田ビル2階
TEL：03-6233-9810　FAX：03-3232-2551
大阪支社　〒556-0011　大阪府大阪市浪速区難波中3丁目6番8号 難波シーサータワービル6階
TEL：06-6648-7780　FAX：06-6648-7788